

人間国宝

芹沢銈介の世界
美しい意匠並ぶ

仙台・181点展示

型染の重要無形文化財保持者（人間国宝）芹沢銈介が手がけた本の装丁を紹介する「芹沢銈介 本の装いと挿絵の世界」が25日、仙台市宮城野区の東北福祉大ギャラリーミニモリで始まった。同大見キャンパスにある芹沢銈介美術工芸館の所蔵品を街中で気軽に鑑賞してもらう出張展示で、7月21日まで。

本の表紙や新聞、雑誌の挿絵など181点を展示。芹沢が装丁を手がけるようになったのは民芸運動を主導した柳宗悦から雑誌「工芸」の装丁を依頼され



芹沢による「工芸」の装丁を楽しむ来場者

たのが契機だった。「工芸」創刊号（1931年）は布を藍で染め、幾何学模様をあしらった。1部ずつ手作り

りで500部作ったとい
川端康成「雪国」、山本周五郎「樅の木は残った」といった文豪の本の表紙、児童雑誌「少女の友」の挿

絵など貴重な品が並ぶ。

奈良綾学芸員は「生活に身近な本に、芹沢がさりげなく施した美しい意匠を楽しんでほしい」と話す。

午前10時～午後5時。月曜休館。入館料は一般500円、大学生以下無料。